

長月 愛南文芸

みなみうわ俳句会

知らぬ街知らぬお寺に立葵
若鮎のからだくねらせ苔を食む
路面電車のきしきし軋む街薄暑
特売日土用と決めて鰻買う
空蟬の渾身するがる大樹かな
汗ほどに庭の手入れの抄らず
空蟬やお地藏さまに手を合わせ
梅雨ふかむ旧き句誌など読み返し
空蟬や発ちし我が身を追う瞳

御荘俳句会

外國の残暑背負ひて歸りたる
洋として千二百年の夏遍路
合歡の花音は眠りし峽の昼
追風に背を巻きあぐる赤とんぼ
辞書開き一字をさがす夜の秋
今宵弾く琴六段の涼しさよ

檳榔子

雲の峰散歩の土手の真つ正面

長尾 則夫

濱 初榮

中川千代子

若林八重子

小島 泰子

木村 智子

竹村 勝利

田口ひさ子

宮下 峰月

尾崎 松恵

加洲勢津子

山本 金子

若林八重子

てんと虫軍艦マーチで飛んで来る

矢継早の幼の問ひや雲の峰

蛸や一日終えたる船溜

母猫の子を呼ぶ声や沙羅の花

ねむの花今日一日を大切に

開花待つ蓮の浮葉の静寂かな

母の忌や供花に遊べる夏の蝶

晩年の移ろい早し稲は穂に

若山 節子

吉田モミエ

濱野 康子

山口 和子

吉田 朝子

小島 泰子

山口 董

三好ミキエ

西海俳句会

「デイサービス」

仲間減る入院逝去酷暑かな

全摘出兄のふるさと夏蜜柑

病みあがり盆の踊りに行けるやら

まさなる山に向かひて堂開く

利根早智江

吉田 朝子

吉田 笑代

吉田 弘定

新くさの葉短歌会(はこべ)

楠の新芽陽に輝きて赤味おび花の如くに開き始めをり
ふる里の小径の子安地藏さま赤あたらしき前かけ重ねて
日々にのむ葉目ぐすり数ふえて間違いないかと幾度もたしかむ
たちこむる糶の醸せる麦の香は室に満ちたり今年も上々
あと幾度ふる里に帰る弟かわが傍にまた目葉をさす

市川コマエ

齊藤トミ子

長田ハル子

西崎 文恵

前田 充

はじめまして。赤ちゃん。

7月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

7月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。